

製品名: CD1B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08260**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	CD1B
別名	T-cell surface glycoprotein CD1b (CD antigen CD1b)
遺伝子 ID	910.0
SwissProt ID	P29016
免疫原	AA 範囲: 60-100 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

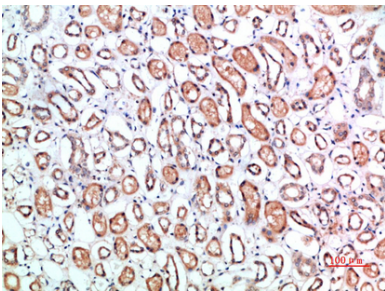
この遺伝子は、膜貫通糖タンパク質の CD1 ファミリーのメンバーをコードします。CD1 ファミリーは構造的に主要組織適合遺伝子複合体 (MHC) タンパク質と関連し、 β 2 ミクログロブリンとヘテロ二量体を形成します。CD1 タンパク質は、主に自己または微生物

由来の脂質抗原および糖脂質抗原を T 細胞に提示する役割を果たします。ヒトゲノムには、1 番染色体上にクラスター状に配列した 5 つの CD1 ファミリー遺伝子が含まれています。CD1 ファミリーのメンバーは、細胞内局在および特定の脂質リガンドに対する特異性が異なると考えられています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞質末端のチロシンをベースとしたモチーフを介して後期エンドソームおよびリソソームに局在し、脂質抗原との結合には小胞の酸性化を必要とします。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]機能: 自己および非自己の脂質・糖脂質抗原に結合し、ナチュラルキラー T 細胞上の T 細胞受容体に提示する抗原提示タンパク質。、その他: タンパク質合成および成熟過程において、CD1 ファミリーのメンバーは内因性脂質に結合します。タンパク質は内在化され、エンドソームまたはリソソームを通過した後、細胞表面へ再び輸送されます。サポシン C との相互作用は、細菌性脂質抗原をリソソーム内の CD1B にロードするために必要です。、類似性: 1 つの Ig 様 (免疫グロブリン様) ドメインを含みます。、細胞内局在: 細胞膜、エンドソーム、リソソーム間の細胞内輸送の対象となります。細胞表面脂質ラフトに局在する。、サブユニット: B2M (β 2 ミクログロブリン) とのヘテロ二量体。サポシン C と相互作用する。、組織特異性: 皮質胸腺細胞、特定の T 細胞性白血病細胞、その他様々な組織に発現する。、

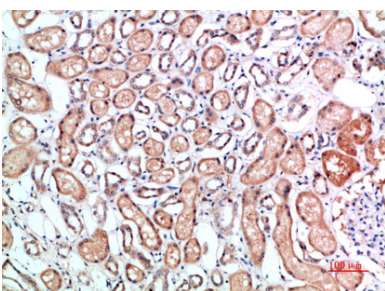
研究分野

造血細胞系統;

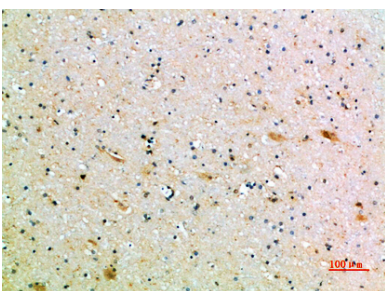
画像データ



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳 of 免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された